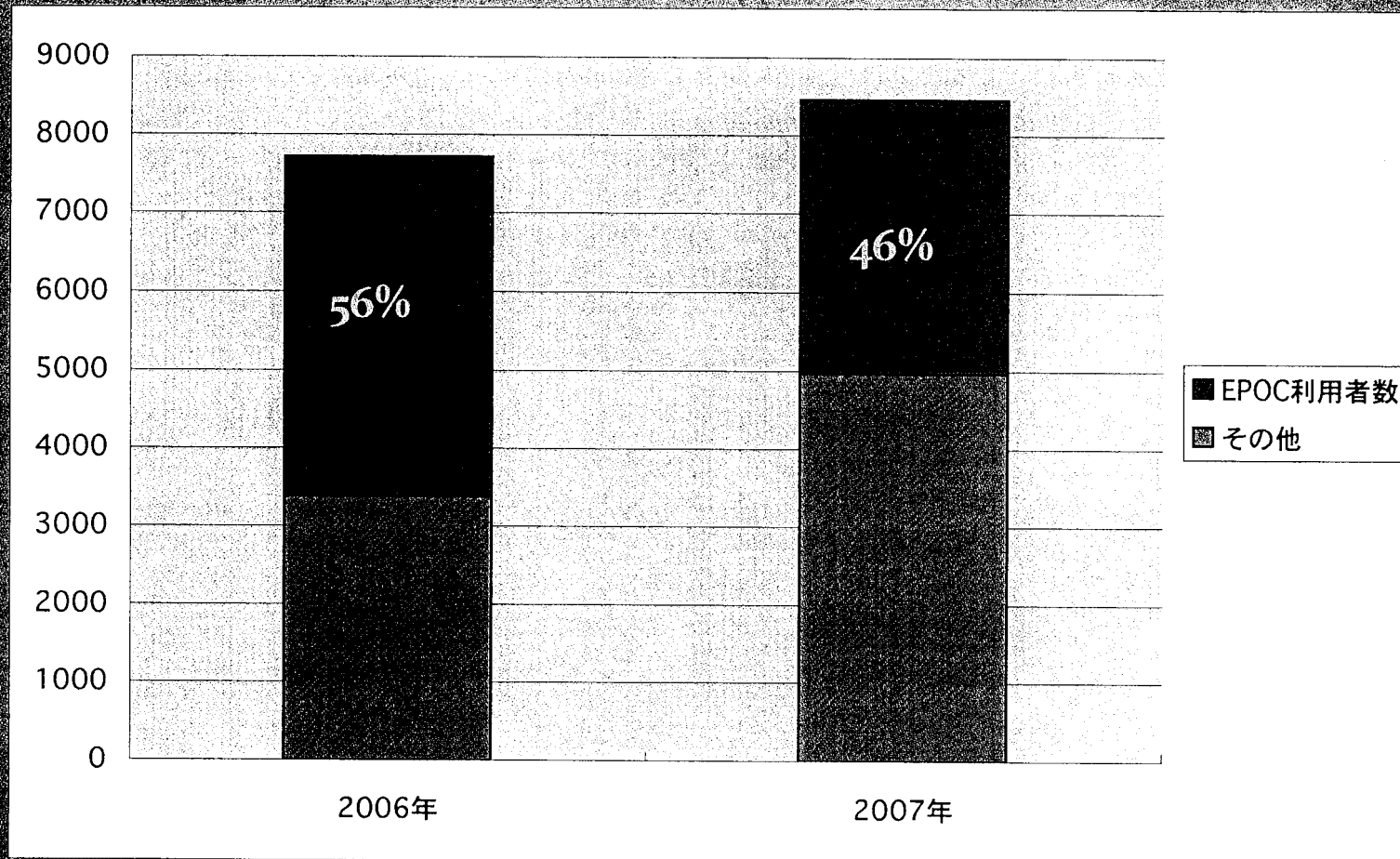


Evaluation system of Postgraduate Clinical training (EPOC)



巻頭言

医療展望

嘉山孝正

(かやま・たかまさ)

山形大学医学部
附属神経外科教授

ゆとり教育は日本医療のレベル低下を招く
新臨床研修制度の負の影響



には3000名もの医師がおります。東京の有名な病院でも、東京大学医学部と比べれば医師の数は少し少ないのです。そういう教育に誇っていない市立病院に、卒業したものの何も分らない若い医師を、分散させ研修をさせようか、また、教えている市立病院の先輩医師にとっても、将来自分の後輩になることが保証されていない若い研修医を真剣に教えている医師は少数です。

ち、ゆとり教育で育った若者が敬遠しているだけなのです。難しいことはやらずに生活上、まうという空気を作ってしまったのが、臨床研修制度を取りまくマスコミも含めた責任者だったのです。大学病院にも風邪の患者さんが増え、欧米の低レベルの医学教育と比べれば日本は世界最高の教育を行っているのです。

以上を述べた上で、現代の若い医師が大学に戻ってくるわけはありません。従来の大学医学部や附属病院がすべてよいわけでもありません。従来の医局制度の欠点や講義間の垣根を解消する努力が若い医師にとっても、患者さんにとってもよいことと言えます。

新臨床研修制度が義務化されて、3年目に降りてくる。本制度の負の影響が、医師の大学離れと地域医療の崩壊です。この現象は事実です。耳には心地よく聞こえるお題目が並べられていますが、既述の文脈に近い教育制度です。医師の生涯教育の中心は日本だけでなく、欧米を含めて、大学医学部および大学附属病院で行うことが、最も効果が高く、医療の質を高く保っているのです。その理由は、大学医学部および附属病院は設備、人員が教育ができるように整備されているからです。

改を先行しているのが日本の現状です。文部省が10年前に行ったゆとり教育と同じことを、医師の教育でもやっているのが新臨床研修制度です。ゆとり教育もお題目はよかつたのですが、結局子供たちの学力低下を招いた事実は否定できません。医学教育のゆとり教育は、確実に将来の日本の医療レベルの低下を招きます。

ベルが均等であるということも評価されているのです。

方、医事評論家等がお手本のように唱える米国は、第15位です。医療レベルも日本より低く評価されていますし、責任感、均等性も日本より低く評価されています。従来、悪い悪いといわれてきた医局で教育された医師が、また、米国の医療費の半分しかない環境で、北海道から沖縄まで開業の医師を含めて、世界第1位の医療レベルを堅持してきたので